

平成22年度 京都市立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	B	取組 名称	日本と中国の古典演劇の比較研究
研究代表者： 文 学部（研究科） 教授： 山崎 福之			
研究担当者： 京都市立大学（山崎福之、小松謙、佐々木昇二（敬称略） 外部分担者・協力者（赤松紀彦氏、池田敬子氏・山崎美紗子氏、前田尚香氏、安東伸元氏）			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
【研究活動の要約】 （可能な限り府民目線で、分かりやすく簡潔に御記入ください。） 「日本と中国の古典演劇の比較研究」という研究テーマは、文学部日本・中国文学科で近年推進してきたものであり、これまでも二回シンポジウムを開き、またその内容をさらにわかりやすく解説した書籍の出版などを通して、その成果を一般府民に公開してきた。今回の特別研究では、これまでの日本の能楽と中国の崑曲という比較研究の対象をさらに広げて、日本の狂言と中国の古典演劇全体における狂言的演劇要素全般について考察することを目的としたものである。今回は二回の研究会と年間を通してのメール等による緊密な協議によって、研究内容の確認と達成目標の設定、その成果に関わる議論、検証を行った。			
【研究活動の成果】 上記の要約に記したように、今回は日本の狂言と中国の古典演劇全般との比較を行った。研究分担者が、まずそれぞれの問題意識に基づいて日本演劇、中国演劇、そして西洋演劇の視点をも交えて総合的な研究を行ったことに加えて、狂言の実演者からの実際の舞台での上演における問題提起も行われた。こうした比較研究という視点の下に、それぞれの成果を総合することによって、これまでは別々に議論されてきた問題点が対照的に把握されることとなり、従来はほとんど認識されて来なかった課題が明らかになってきた。それぞれの演劇における役者の実際的な動きと演出の関連性や、長時間の演劇の中での緊張と弛緩の調和の取り方、中国古典演劇における能楽的な演劇と狂言的な演劇の相互関連性とそれぞれの発達、といった問題が明瞭になってきたのである。 こうした成果に基づいて、来年度も引き続きACTRを申請してこの研究を継続する計画である。それが認められれば、研究成果を検証することを目指すとともに、その成果を広く公開することを実現させるために、狂言と中国古典演劇の双方を実演して目に見える形で比較検討するというシンポジウムを開催する予定である。			
【研究成果の還元】 H23/3/31「地域貢献型特別研究成果報告書 日本と中国の古典演劇の比較研究」（府大図書館で閲覧可） （希望者への配布・閲覧可能）			
【お問い合わせ先】 文 学部 教授 : 山崎福之 Tel: 075-703-5209 E-mail: y-yamazaki@ml.kpu.ac.jp			